

# NST通信

**お知らせ**

◆委員会 12時30分～ 講義室  
3月9日(水)

◆勉強会 17時40分～ 大会議室  
3月16日(水)

◇レクチャー 検査室  
◇情報提供 栄研化学 大塚製薬

2月になり暦の上では春となりましたが、まだまだ寒い日が続いていますね。

今月は、活動係数・障害係数を取り上げます！患者さんの入院時・入院後定期的に作成する、栄養管理計画書などで使用されるこれらの係数ですが、普段こういった基準で判断されていますか？もう一度復習をしてみましょう！

**必要エネルギー量の算出方法**

★基礎代謝量 × 活動係数 × 障害係数 = 必要エネルギー量



## 活動係数 Activity Factor

その人の活動の度合いによって値を設定。  
より活動的になるほど、高くなります。

## 障害係数 Stress Factor

その人の障害の度合いによって値を設定。  
障害の程度が大きいほど、高くなります。

1.0

寝たきり  
(意識低下状態)



1.1

寝たきり  
(意識覚醒状態)

1.2

ベッド上安静



1.3

ベッド外活動あり  
(ポータブルトイレ使用)



1.4

(センターリハビリ実施)

1.5

一般職業従事者  
(軽い労作  
～中等度の労作)



1.7

### 発熱

37℃	1.2
38℃	1.4
39℃	1.6
40℃	1.8



### 術後

軽度	1.2
中等度	1.4
高度	1.6~1.8

### 褥瘡

深さd1・d2	1.1
D3	1.2
D4	1.3

### 熱傷

体表面積の	
0~20%	1.0~1.5
20~40%	1.5~1.8
40~100%	1.8~2.0

### 外傷

骨折	1.2~1.3
筋肉の損傷	1.3~1.5
頭部損傷でステロイド使用	1.6
複合外傷・人工呼吸器使用	1.5~1.8



### 感染症

軽度 (インフルエンザ など)	1.0~1.5
重度 (敗血症 など)	1.5~1.8



### 多臓器不全

1臓器につき0.2増加 1.2~1.3

### 悪性腫瘍 1.1~1.3



ベッド外活動有りの患者の活動係数が1.1と入力されているなど、係数と実際の活動がかみ合っていないことがあります。また、入院時と中間で活動の度合いが変化している場合もあります。状態に応じて、適切な活動係数の記入をよろしくお願い致します。

